

備える。

準備。予備。整備。技術。守備。警備。
そなえる…用意する。そろえる。用心する
防備。常備。完備。不備。具備。兼備。
そなえ…したく。用意。警戒。防犯
備品。設備。備蓄。備置。備忘。
そなわる…準備ができる。身に付く
●●ソナエ アレバ ウレイナシ!!



かわさき
防災広報紙

昭和60年6月30日発行
編集・発行：
川崎市土木局防災対策室
〒210 川崎市川崎区宮本町1番地
TEL.(044)200-2111内線2841



雨ニモ、 風ニモ、 マケケズ、 マケケズ

へそ
れ
ぞ
れ
の、
備
え

うっとうしい、梅雨。

地震への備えとならんで、毎年のように各地に大きな被害をもたらす、へ大雨やへ台風への備えはできていますか。

近年は、大きな台風の直撃なども少なく、河川や下水、それがかげ地などの整備もすすみ、安心の上アグラをかき、備えることをつい忘れがちです。しかし、昭和57年7月の長崎豪雨や、翌58年7月の山陰豪雨の例を出すまでもなく、各地で大きな被害を出しています。川崎市内でも、57年9月の台風18号などによる被害が出ており、1時間に30ミ以上の大雨が降ると、丘陵地や台地では、かけがくずれやすくなり、低いところでは、短時間の大雨でも、思わぬところで浸水が起こりやす

くなります。

とくに、市内の丘陵地をおおっているへ関東ローム層は、水分を含むとくずれやすくなるので、十分な注意が必要です。

大雨や台風による被害をできるだけ少なくするためには、ふだんから、排水路や排水口の流れをよくしておき、家のまわりの点検や補強を心がけておきましょう。

また、大雨や台風ときは、テレビやラジオの気象情報に注意し、早めに避難の準備を心がけることが大切です。

梅雨の終わり：集中豪雨が起きやすくなります。十分な備えと注意をお忘れなく！

雨に、備える。

風に、備える。

あ、生きてるな

奇跡の生還

長野県西部地震（中日新聞59・10・13夕刊から）

森本博・美世夫妻

「びっくりしました。家がないですよ。残ったのは勝手場の一部とふろとトイレだけ。（奥さんが）いたはずの居間もなければ、民宿に使っていた部分も全部ない。ああ、あれ（奥さん）は死んじゃった。オレ、一人になっちゃったなあ、と思ったのを覚えてます」

〈美世さん〉

「奇跡」「不思議」と、二人は何度も口にしました。森本博さん（62）と妻の美世さん（57）。あの日――9月14日午前8時49分、博さんが62年間住み慣れた家が、地震とともに、土台ごと崩れ落ちた。美世さんはその家と一緒に流された。夫は妻が、妻は夫が死んだと思った。（中略）

〈博さん〉

トイレで身繕いを終わった瞬間だった。体が持ち上がり、次の瞬間、大きく沈んだ気がした。立ったまま、両手を壁に踏ん張って、揺れをしのいだ。トイレの窓の外に、電話線が垂れ下がっていきのくが見えた。後から考えれば、その時が、家の五分の四をもぎとっていった土砂崩落が起きたときだった。

揺れが収まって、トイレから出ようとしたが、戸が開かない。余震がきた。こんな所に押し込められたら死ぬ、と思いましたが、その恐怖心が、アルミ製の丈夫なトイレの窓枠をはずす力になった。

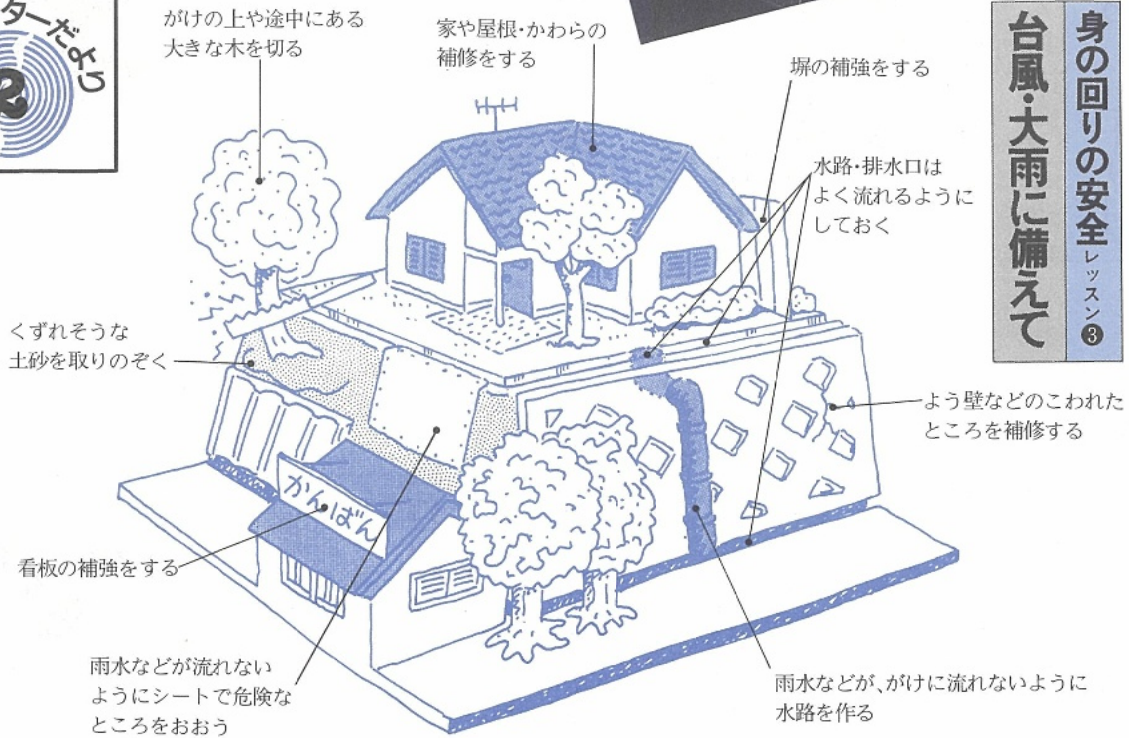
「どうして、あんな窓から外へ出られたか、いま考えると本当に不思議です」

ともかくも外へ出て、すぐ奥さんの名前を呼んだ。「みせーっ、みせーっ」大声で二度、返事がない。道路へ出た。

「あ、生きてるな、と思いました」。次に「私、一人きりが生きて、と思いました。お父さん博さん、どの部屋で死んじゃったのかなあ、とも思いましたね」。

余震が来た。上の方の地面がゆらゆらと揺れ、目の前にいっぱい土が滝のように落ちて来た。このとき初めて怖い、と思ったという。（略）

身の回りの安全レッスン⑧ 台風・大雨に備えて



大雨や台風するとき

- テレビ・ラジオの気象情報に注意する。
- 家のまわりのこわれそうなところを補強する。
- 排水路・排水口の点検をする。
- 危険と思われる場所では、まわりの状況に注意する。
- 川の近くでは水かさにご注意する。
- 浸水のおそれがあるところでは、家具やタタミなどを高いところに移しておく。
- 服は行動しやすいもので、保温性、防水性を考え、必ずくつをはく。
- 荷物は背おう。
- 家族そろって、避難する。
- お年寄りや子供、病人のいる家庭は早めに避難する。
- がけ下、川べりなどの危険なところはさげ、よく知っている安全な道を選ぶ。

避難するときには

- 服装は行動しやすいもので、保温性、防水性を考え、必ずくつをはく。
- 荷物は背おう。
- 家族そろって、避難する。
- お年寄りや子供、病人のいる家庭は早めに避難する。
- がけ下、川べりなどの危険なところはさげ、よく知っている安全な道を選ぶ。

「宅地の防災工事に市の融資」川崎市では、がけくずれや、土砂の流出による災害の防止や復旧のための工事に融資をしております。くわしくは、都市開発局開発指導課へ。

☎ 二〇二二二一内線二七六

● 非常持ち出し品などの準備をしておく。

※とくに、トランジスタラジオ、懐中電灯、食料、ロープ、下着類、赤ちゃん用品など

● 避難場所や安全な避難路を確かめておく。

※避難場所は、主に小・中学校など

※地震のときの場所と違う場合がありますのでご注意ください

● 家族や地域の自主防災組織などで、台風や大雨について話し合う。

● 浸水のおそれがあるところでは、家具やタタミなどを高いところに移しておく。



「防災」を勉強しよう

「大地震にそなえて」という防災の番組がTVK（テレビ神奈川42チャンネル）で放送されます。小学校4年生向けの社会科用に作られたものですが、南部防災センターをはじめ、川崎市の総合防災訓練、幸区の鹿島町田内会や中原区の大谷戸小学校の防災訓練のようすが、ご覧になれます。その他、川崎市の防災対策についても、わかりやすく説明しています。15分の番組で、放送日時は一、

- 7月4日(木)―10:40
- " 6日(土)―9:50
- " 9日(火)―9:35
- " 10日(水)―9:50
- " 11日(木)―10:40
- " 13日(土)―9:50

です。ぜひ、ご覧ください。

もちろん、南部防災センターでも、「防災」の勉強はできます。

● 見学ご希望の方は、川崎区小田7-3-1 川崎市南部防災センター ☎355-2175へ 交通機関＝川崎駅東口9番のり場 臨港バス 富士電機行「小田小学校前」下車 徒歩6分

津波に注意

日差しが強くなり、海水浴や釣り、海に出かけることが多くなります。海にいるときに地震が起きたら、「津波」を警戒して、まず高い所などに避難し、ラジオなどで情報を確かめましょう。